



中村俊定文庫  
文庫 18  
582





安永九年



鷄旦

鏡松江戸やと深き中

花梅田や追手下馬光 蓼太

駕りも亦石止凡を光る 周竹

葆光齋

天府





翠尾

山くね

天府



仰きや雪の

かつけ綿

和清

太乙館

不騫

まゝ川や松も七日のかさし草

大政尔らうふまのそ海人 暮太

曲捺の折くそ碗かそ海を 岚亭





季冬

伊勢海老も

年の綱代母

かゝるり

不審



如文の因草ト  
終らざる松竹も  
こゝにふも

今朝の〜松屋様よ千代と〜神の酒

兒ふけやりかゆけやりか東風 蓼太

むく洲の〜舟に此な草えん 文母

祇高館  
此英





守歳

名を存す

梅はとるん

餅乃花

此英



聖節

水や忽決まるとは

寒窓堂

波人

今逢ふの所は内を男 蓼太

双六能く同上はふくは梅魚文





終歲

建くす

月夜のを

松か

簾



青陽

先紫梅

千慮

はるの井のふみらの初

建くす室能敷

梅の息を案内も神小好く





年尾

大根子

ふゆき

子慮

年此市



序

歳首

年と川てあさううあー花のま

雪羽人

丹頂

ふ初よーの駒のまひりや 夢多太

幣一氏子をさす新瓦和て 阿人



年



季冬

志々空尔

人々々々々

子乃市

丹頃



元旦

門松や大通車人通里

櫓夜樓

雲凡

今頃暮るる能薨十才 暮太

冥加何々勢流下かあふ系極尔 月菓





早暮

條水之々

あふまふまふ

高き如

雪凡



岸

玉陽

りふい実序のいさゝか花子始

朝凡さけと袖結き場 蓼太

此よりいさゝか花子始のいさゝか花子始 官氣

雪明樓

壽梁





守歳

餘つる

民多福

喜す

青梁



青帝

名月此契之松能初日占

已所も好く居候能至

能國の人乃居立しる

雲扇窓

花盟

夢太

官前





冬

掃

雪の

葉

花



序

歳

松人そ

菊

百

花

雪



序



歳末

迷々々

袴の如や年の

長羽鳥

百拙



春興

さしにたて雨の柳や鶴鳥の琴

延翠堂

大方

引ふるさなは清士眠けふれ 夢太

ふりぬくの面はるりし無糸 青雨





まき遊

おとろしきまきつらなりしまきのあ

鳥信齋

苑枝

梅まきつらなりしまきのあ 蓼太

京昆布小定家れあのかけ海あて 石髪



鳳曆

おとろしきまきつらなりしまきのあ

洗月樓

蓼江

京江戸難波先之能春 蓼太

おとろしきまきつらなりしまきのあ 魚文







栄来暮

五月 かつら

蓼江

の

梅のつゆ

止歳且歳尾花春典句坐任到来  
各刊云略之

懐引赤徳

種多しつやつり人の老と

富士丸

初鶺鴒や珠鼓は若新む

下十種梅

梅雨

りしつやつこ録梅からし

江戸

北

年花束の歩も若新魚新

今

沙羅

神の灯と初喜梅咲ふり

一



席千里とく一戻りゆゝゝ上井法花 柳翠

静さや年終うゝゝの年奉 伴常 甄醉

そよよしく初りゆのゝや板庇 浪花 玉東

常や鷹鷲のそよ風と並ぶと 東都釈 子竜

船舟能ゆゑもそよそよ 江戸 祇風

乾鐘の鐘とくやや年の布 遠河金谷 月哉

年礼ややと前髪能放鳥 下サ小丸川 夢奴

葉舟とくそよそよ年終酒價 江戸 祇風

元りや古きとものゝハ龍年 江戸 祇風

若手戸や梅も手傳ふ音 下サ小丸川 夢奴

若手や先思地井能波分 遠河金谷 月哉

楫取能波と終は年 江戸 竹奴

くく飛と能身ゆゑも川二 江戸 竹奴

集始

名りや扇とくも 江戸 竹奴

常や二お身て日と 江戸 竹奴

軍配ハ孩子能織や年 江戸 竹奴

百子能朝もそよ 江戸 竹奴

白子能朝もそよ 江戸 竹奴



鳥夢まをいしく少く年忘

元日や新代の後を人う後武府中有菟

清きや月息を破別雲

芳しき除夜の紙布や梅の花

伐採こころ後年を柳之柳伊七津理玉

松牛をみ隣りり之を朝川津季度

之強し迎葉も舞うこと一忘

孫を孫はあそぶる花よ尾藤の果上廿法花止候

元日、以るや中言を尾藤袋

白花を先きとるや初魄梅沢智邑

常月や清めて除夜の雪を

有水能わ戸を一河の流を全哥夕

掛きの指、をみそと雲をうら

若くや花の後を梅一本全芦舟

尺西を、けしとるを、一、夜の雪

押詰や近き能清代と眼能河らい戸宇平

ふるや牧ふ探る、年を、雪

渾沌を陽の、し、め、を、富、貴、月上廿小吉兔月



百ハ新敷も折少中深奥の境  
 之後人の神より折少門水戸の境  
 梅折さすらん種園下河原  
 身くに空もいさる一子の音  
 家むりや一おふひく花の香江戸  
 滝誠て流さ中梅折るもか  
 梅折道はこりす小折け深奥の門  
 山もりたのきさきさきくら初鹿今  
 煉るき中んこ何々ぬ折情  
 黙我

鶏旦

礼状小年減て歩り去列未可  
 粥杖や折もて多ふむつ去  
 妻さき一何きぬ勢能き産  
 先年折流ふて信一山代去  
 折年折中折少折年車  
 家くの肉信折少折流さち  
 弟さち中折少折流さハ折少  
 餅花や年折少折流さハ折少

夢主

孤月

菊ひら



年月新虎嘯くや天々音 全 以席

死活くを原汲ふて東坡并

海月のいふききん志牡丹 全系村

雪よ葉のくさき新妹く 全 楚犯

十歳醒新言も解き小梅らぬ 全

鶏孤初日にむくめ勢い系 全 急童

浪川や年まといさうは有車 全

一帯のあゝまゝあまや初馬 全 配广

群文に隣むつまゝすゝまゝ 全

あゝ水や先髪撫ふ人々 全 吳秋

一ひみみおゆや煉ろい 全

世の中や初り生じて古節月 全 花應

三年の歌や人のんお花を川 川名

梅うまのや宮うら候ては所の暮 川名 谷戸

古札お掛やあつまゝ津の表

東と奥管崎を管屋舎社中

せんむくく扇を富古や明新音 竹富

ろろくくくは誠く作走う系



蚕えく日内んて空ん 初唐  
 さまひんわつゝハ貴友も年忘  
 名くゝとんも事くら今胡皇  
 象とらうこ海工セハ一十年の昔  
 舟并やりの大滝より流るる  
 氏翁やも獲りと前ふひまが  
 居藤の負て磁子ハ家の室へふ  
 地をくらゝのひわらき舟賣  
 産神に委くゝ明て初ゝと  
 隈月  
 龍帝  
 白鷺  
 龜文  
 酉耳

丹宮よりつりけりるさつゝふか  
 標載る年の山あり花ひき  
 壺よ入るもかんとゝの市  
 おさうりわくゝひ初玉津氏  
 お一造くゝれきると古 唐  
 初を和勢の石職るや市浦  
 子室や津しと君とのふ来り  
 暁能令の記や初かゝる  
 暮てけりひゆるあうゝ忌牡丹  
 東英  
 於老娘  
 市戸  
 令我



春日

下りてふりもかり花の春  
 蘭室  
 向かてしつゆけあり子花  
 梅年  
 去年の雪ふいと一歩のやふ  
 揚江  
 競屋もあき海のいこ松の春  
 散友  
 浮きうけと表男や去年お奥  
 散友  
 河濱ふまるとけえき日の始  
 散友  
 玉の流球も川にひきうんどの市  
 散友  
 月花の月夜明くうら花の春  
 卓如

下りてふりもかり花の春  
 蘭室  
 向かてしつゆけあり子花  
 梅年  
 去年の雪ふいと一歩のやふ  
 揚江  
 競屋もあき海のいこ松の春  
 散友  
 浮きうけと表男や去年お奥  
 散友  
 河濱ふまるとけえき日の始  
 散友  
 玉の流球も川にひきうんどの市  
 散友  
 月花の月夜明くうら花の春  
 卓如

下りてふりもかり花の春  
 蘭室  
 向かてしつゆけあり子花  
 梅年  
 去年の雪ふいと一歩のやふ  
 揚江  
 競屋もあき海のいこ松の春  
 散友  
 浮きうけと表男や去年お奥  
 散友  
 河濱ふまるとけえき日の始  
 散友  
 玉の流球も川にひきうんどの市  
 散友  
 月花の月夜明くうら花の春  
 卓如

下りてふりもかり花の春  
 蘭室  
 向かてしつゆけあり子花  
 梅年  
 去年の雪ふいと一歩のやふ  
 揚江  
 競屋もあき海のいこ松の春  
 散友  
 浮きうけと表男や去年お奥  
 散友  
 河濱ふまるとけえき日の始  
 散友  
 玉の流球も川にひきうんどの市  
 散友  
 月花の月夜明くうら花の春  
 卓如

下りてふりもかり花の春  
 蘭室  
 向かてしつゆけあり子花  
 梅年  
 去年の雪ふいと一歩のやふ  
 揚江  
 競屋もあき海のいこ松の春  
 散友  
 浮きうけと表男や去年お奥  
 散友  
 河濱ふまるとけえき日の始  
 散友  
 玉の流球も川にひきうんどの市  
 散友  
 月花の月夜明くうら花の春  
 卓如

下りてふりもかり花の春  
 蘭室  
 向かてしつゆけあり子花  
 梅年  
 去年の雪ふいと一歩のやふ  
 揚江  
 競屋もあき海のいこ松の春  
 散友  
 浮きうけと表男や去年お奥  
 散友  
 河濱ふまるとけえき日の始  
 散友  
 玉の流球も川にひきうんどの市  
 散友  
 月花の月夜明くうら花の春  
 卓如

下りてふりもかり花の春  
 蘭室  
 向かてしつゆけあり子花  
 梅年  
 去年の雪ふいと一歩のやふ  
 揚江  
 競屋もあき海のいこ松の春  
 散友  
 浮きうけと表男や去年お奥  
 散友  
 河濱ふまるとけえき日の始  
 散友  
 玉の流球も川にひきうんどの市  
 散友  
 月花の月夜明くうら花の春  
 卓如



白きしひ日の斜しこころ一舟  
梅もあやの泉の吹く川思小蛇  
此の窟に入口峰一梅の花  
川く小川や松の枝一取松  
尾津島  
草之

衣冠や能傍不事申とのうき

の一夜あもこころは斜の庵

奥柳念ふ交唐連中

川をどめて門松平入り一柳  
一風

家悲しくあす能も成立まぬ

雨をよめてあまき能柳まきふ  
蹄うらまきとそしめき能柳小  
枕打も大空の川や大あ日  
春もり能りわきあけて花のま  
春空の能もとりる能き能普  
えりや人能別神く能  
ふあめかき能能中幸忘  
川並上能能網やねり春  
春人能の柳ふとそきぬ  
全  
雨柳  
季中  
小句  
柳月



玉湯

彦引平六里連中

梅うまがねり初々や車 馬治

梅うまの免くあわの氷車 全 吏高

御初もあつさきうき男のふ 全 雨井

千町田とあつさきを思ふん 全 亀茂

あつさや田沼御初のあつさ 全

あつさあ家もあつさりあつさ 全

梅うまの限とあつさ初りあつさ 全

梅うまの凡景あつさあつさ

年小集とあつさあつさあつさ 全 如泉

あつさあああああああああ 全 季大

あつさあああああああああ 全 翠翁

あつさあああああああああ 全 佗茂

あつさあああああああああ 全

あつさあああああああああ 全

あつさあああああああああ 全

あつさあああああああああ 全

あつさあああああああああ 全 以晴

上乃大君



海苔無乃ふく年波あちる日和ハ

九

青帝

元り巾衣着るうぬ州新島海

東初

吏曉

包并く浪進くけく年と惜りり

元り巾衣着るうぬ州新島海

五柳

掛念ぬまのく中りくゆの梅

門表く人きみりりの浪進くけ

東奴

教すハ静るくまをく際風の浪

出初り明くくく初形新恒形

心武

松舟の云又くまを能くく舟

万葉や先くくくくくくく

靱葉

くく不語表や年能く海波

遠草や多と浪泉の初月是

青々

追連川本流の舟や風の波

風乃海く舟なる水く初月

古音

不栢や人のまきくく初月

花ぬくく心脚まの初月

者うくく心脚まの初月

百臺



かあしすしとまを包てふ本るは  
 門を能くしれまふれ時の表  
 馬能者しねゆふゆの音  
 路りぬ能のゆよ時代の表  
 蟻もきや乳母は清くね能者  
 強はりの海老おゆれ千この表  
 炭焼の越るきしひるお市  
 年ふしゆあやさゆト一の期  
 けいもや能ひあよとまあゆ

志石

鬼明

千尺

竜之

菫しゆやもふふもはる花の表  
 年菊割月小菊つく田力おか  
 初の字お冠ハ咲し今朝の表  
 一たつさふしとて被御まは  
 えらふき坊おまゆ川居後表  
 五十くとふしひめくまの布

琴和

蘭香

立石藤

早春

馬帽子さくこ梅首めくは代表  
 御乃くみ湯振おふ御まは

一侍







六尺三寸のぬきや直るの柳 江列 龜川

かき舟作走ともあきと置る柳 つては 雁路

又かき舟作走ともあきと置る柳 つては 雁路

何より又作ともあきと置る柳 つては 雁路

腰巻を初月までと柳の葉 下舟指 徐来

鈴鹿も鬼あきと置る柳 為津 砂明

何よりともあきと置る柳 為津 砂明

投入る作走ともあきと置る柳 全 花嬉

ろくろかき柳く振わきと置る柳 全 花嬉

二日月や松竹柳かき舟 全 文東

耳榮成伐事かき舟 全 砂凡

天孫戸のおしぬきや松と竹 全 砂凡

祝と子の柳かき舟 下毛指末 石葛

うらひすや柳かき舟 下毛指末 石葛

更始

梅りよのりは流るる意月 下舟竹内 岷江

冥く代戸鏡の鏡かき舟 全 玉斧

逢津かき舟 全 玉斧



まらつとわみきりけく

あまやほともさし雲の影

月と日の帯おもむくや鷹の翼

松々まさをくあや川の初まゝ

ま年の隙や蜂の巣もささぎ川

めくさほの百態や朝のま

すももやや垢とりぬふくの井

既中端まともおろり縄 月

うほささぎはまきまもくまや除夜の境

湖花

雷弁

菴梧

松若

鳥啼く松方歌とぬかりり

押合さくまは誠堂をや、母の帯

習ふてをねりまし、かきり作

まら花やまあふくくの雪の外

大福のまき立湯もや、初らす

まきまき川その粒や朝の梅

聖節 藤中

初よりやねあはれのをんてふ

系ごしのまわや、つれ川曉る鐘

魚江

青々

松江

春江

三〇



花のちや結んぬ初す  
 好を掃く招ゆ人あは  
 柳すれは家玉川や初  
 年の尾も今や誠ん  
 世の中お玉のつら  
 けぬりは静ふ旅の  
 言根をれも初  
 みるよと何あて  
 百のちや今  
 全  
 万  
 全  
 志  
 全  
 李  
 全  
 波  
 全  
 夏  
 全

うきそくくくの一  
 百道系唐き初  
 先一母子家  
 うはとわ夫と初  
 ニツの唐もセ  
 大福く  
 言忌の  
 玉川の  
 全  
 駿  
 全  
 禁  
 全  
 蝶  
 全  
 波  
 全



おもひの命しりりわすのま  
 始  
 今卯の春誠海しりり一のま  
 帆南  
 山州お卯海やと一お市  
 大ふくやわ川ほろ卯わけ  
 けしはやたふふすたこま  
 門李や中代の古るこ道  
 五帆  
 年波の中や今お玉か一ハ

春香

上徳大寺春香且舎連中

夫お戸の初くくは初厩  
 司丸  
 山くくは初  
 小鏡  
 初夏や君、おお海一  
 岸芦  
 福くくは初  
 回路  
 新おまは初  
 其声



乳房のくまの意突乳母や子の市  
 着るゝ小梅の意やわらわらしく  
 夏すきやわらわらしく年男  
 初元やせんやわらわらしく中二  
 嫁さきやせんやわらわらしく  
 着るゝや男自勝のうらや  
 浅うのく梅の匂いやわらわらしく  
 万葉集 新羅 ありし花を  
 移徒のやつしし梅梅

全 泥亀  
全 振響  
全 黄葉  
全 兔彩

河の玉おぼえししあひのうらや  
 夏すきやわらわらしく梅をむ

全歌 戯極

鳳唐

花枝流おぼえしし梅の意  
 嫁さきやわらわらしく梅の意  
 軒の意あひのうらや初元  
 せんやわらわらしく梅の意  
 せんやわらわらしく梅の意

上サる根 東仙  
出羽松山を友を連 僧極  
全 正梁



掛

子や草わりのもさうし樹の乳

全

首升

すゝきわ人形しきまの草

既云列廣修

君の字能きも先中し初硯

寔立

縮細く寄身する草や衣さうし

全

大御

かざり儘むすもてしや一文字

全

亀踏

月花の言中あらん初こも

全

飛燕

まゝとや花るる産後とハるる

全

鳥燕

草をそわすおたり夫の杖

全

懸席

さゝの草しきしきあひらき

全

豊群

あゝの草まじり子朝日の家

全

情湖

元日や扇あけけいさきをたの

全

竜枝

天地やるまじり西の草しき

全

龍枝

掛



あうれきあひるころ猫の姿 まらま 梧来

政旭

江戸

文雅

おこり終りしとあまの川が流

勢印や勢のありそ毫の如

系みしと米壽のや、ひの香

誇り流るる清代のう川が

離 誠と清とるる世とくの一舟

正日やりと焼火のそび七日

筆雨改

曜馬

傘破

隣江

山乃まよのいふおかしな歌奥

ゆてり流るるふあまのそ川原

一しやのそり志すうの世の閑

とものつゝと龍向うらり守の裏

日浅あめすき雪の山あり年の暮

志中おかしく小まきとつ乃春

大とくやあまのやとあまの世

遷移のん碓氷や初手あ

世の指いさふかたてのくれ

五静

友鴉

専車

永志

筑前福岡



風光

蓬萊や松やて葺の山

五外

うらぶすや羽らそく岩るあ

夏まきやもしらま川の若

踏の牛れあすいのらく初馬

蔡羅

急小料戸のほやまかさや

初ややなうぬ回毎の自願

三楚

象年の尾花やまおれ並如

初鈴やすと浪掛ふま白乃吉

隆亟

大北字の樹やと一松の桃灯

夢河系君う恵やま川口親

漁舟

たのしきもまお川梅のつりか

まよ川や門ふあまらきう舟

如帆

先きすめ共あま鬼い介

あ井らり貢そめりん彦少

東今

帝小立垣雲を脚まう角カク分

元日や下馬小日の本人あ本

一臨寫

あまそくびへんあし一脚ま山



元日やうきぬせいの大時中

陵花

帆げ舟冥師をふとるる日つ船

掃りぬやうきぬせいの大時中

菊太

梅う鳥や塚の立枝ふゆりむを

夏うきやうきぬせいの大時中

妻物とるるやうきぬせいの大時中

五三

おとけく旭のまきと柳の那

垢とちり油ともふふ影のな

川とくふ千里のまやうの年

紫石

ま柳子とくくぬのすくくを

二度りく掛んぬ小買まの

くからぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

一風

琴の音ふつとてぬくまぬぬ

一二里ふまふまふまふまふ

ぬ川ふ川信ふらぬぬぬぬぬ

拾葉

糸の突くぬ橋の機かいの那

東帯ぬいさお直浅ぬ代乃ま

稲子

まも折や草川あけくぬの中



年波の濤ゆらなりきり舟  
 見遠る人のあきよ今朝の雲  
 川に波おしりてあき少らん  
早川法印のあきとゆき  
 嵐ふきのまはるきや日ここのま  
 浮世の海は清きまは初唐  
 晩鐘や花のふさいふのくれ  
 一 一 一 一 一  
 漣 風 稿 待 之 尊

和 清

海夜せん船やとに良乃春  
武蔵野  
 ころつめて少もひはちあま  
 一 一

系のもうハ船のころころ何船  
全  
 藤もきや琴弾てるる荒おとこ  
 思、代の城のころころ世のま  
きく  
 世のまをき川のまはるき  
上サ今  
 せれせ分清り風ころり水のま  
今  
 傘ささして空をき京乃茶の柳  
 梅溪の若新やのあき  
 44  
下サ行田  
 是ハ又花んちちの梅あき  
 一  
 梅舟  
 一  
 梅舟



室小暮子乃ちこき一梅の花 イヲカ 和泉  
 室梅の暮暮梅も何らん花配  
 朝花舞をくぬくも梅の花 ヒソ 素泉  
 二層庭尔作志一花やむ免の花  
 曉と暮子そくくあり梅の花 早 花  
 室梅小暮子も白り花もさうあ  
 初夜尔母くむ鳥をたつり争 上 一花  
 ぬすめりく大悪業も作走分

佳句

房列連中

梅やさくぬけても玉花を 魚子 夢巴  
 南京の路中も冬を 残雪もくうか  
 名梅もさく初より七み 合 夢虫  
 梅掃く隣子何る一さの梅 源  
 名梅やソノの春をさすれ 源 夢川  
 銀つきの梅を里小夢口 源  
 夢はさす小夢ゆん花の初 源 夢花  
 いささ花の初く誰ん 源  
 松糸や千里つきの 源 文雅



さしかり友お川音や年忘  
 波ゆき居る歳のはらけし初物純  
 産掃て流るつうし年れれ  
 山里も日しとわぬ伏乃妻  
 七後をかきへて物や録むし後  
 多仙も梅不存くや之れ朝  
 録つるや門回まこくある言  
 井もくまきやもまほくの流始  
 どの年やもまほくの流始

山呼  
 里仁  
 庭里  
 仙臥

荒波の波もさるかし一代の妻  
 波月をさるく年の歩るる  
 いささかふきさるの妻もや初展  
 いゆきさる年終は成や系休費  
 真方うし帆か初妻の鼓う那  
 録つるの妻めさるの妻は

東林  
 園李  
 俾和

青陽

若るはい濃ううんあれ中  
 柳いきてまきま川花とあふり

鳳口











松よりて海邊りたる月の  
相争のたると折るや隙おのむ  
是より海印もよーまゝ 袋  
綾いしこく玉のけしき花  
海針の細や隙水の尾換袋

芳春

駿府時雨忘連中

花を吸く明け花や後毒州 盈行  
山よりよのまきしけ 旬いふ  
初冬の落つ 酒をそりし 梧泉

紀の山や一縷さして幸本想  
初鶴や巢成るは二好腫しき 左連  
夏もやす坂あなみのおとこら那 巴明  
しけの鳥もて志きりみ静く  
けいふや木のおよふ人お入  
里の子母なまらけり山の上 居鬼  
海をへ山通ししそ海さこの子  
酒よりさきなきりあり梅の花 杖左  
小糸女やこし月常くまらけり馬

五七



うつくしむ此跡の常やう川馬  
 ちとさきや旭志あふ歌位山  
 名月の松舟初日のかきりり  
 ふるま子老りしに花菱あふ  
 初こよもよ花舟しとちんえり  
 海をよき寺ふ華結天男う那  
 妻と川や又あうもきき塔松魚  
 門くの餅とよこれ葉の痛ふ  
 弱ふふき海系や以乃妻  
 梅壺  
 龜六  
 比其  
 葛人  
 郎城

様掃て子ももの多に夕餉の家  
 破テ弓や為胡とのもけ矢うり  
 乙本撫中ふ心路のきぬさうな  
 甲  
 峨月

緑天

初ふや他母の人れつくりき  
 伍係娘も疎く使もゆさうと源氏香  
 石列のまきとあう  
 松のふん初りの空を花あまふが  
 百とこいせふ紙あしとりの飯  
 梅のまや綴うけあふ鉄あふ  
 女  
 重棟  
 冨中  
 す英







あふの綿石遠め様いし  
まもるも故人しるのま  
全 等々

月さふれぬくくくまきぬ  
稿つむや解るものいれぬの山  
全 青江

あふの綿石遠め様いし  
あふの綿石遠め様いし  
全 湖花

市中やまのまのまのまのま  
如行

Aやまのまのまのまのま  
如行

あふの綿石遠め様いし  
あふの綿石遠め様いし  
全 琴絲

あふの綿石遠め様いし  
あふの綿石遠め様いし  
全 専々

あふの綿石遠め様いし  
あふの綿石遠め様いし  
全 有止

あふの綿石遠め様いし  
あふの綿石遠め様いし  
全 菅舟

あふの綿石遠め様いし  
あふの綿石遠め様いし  
全 圭浦

三十一



の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の

三千年のそらおみの道に花の香  
 尾城 意朝  
 明定城目あふ年能御端の  
 信列田口 扇郎  
 初や月のけいこも是統波  
 松賣く綴るらんこいの市  
 素纏  
 静さや柴焚家のまきの香  
 秋鴉  
 初ややうのまもすこいの心  
 玉光

の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の

か胡ハ又嬉しくきそを初馬  
 信列松代 杉羽  
 ハ市娘の人家逢うてや柳のふ  
 奥仙臺 古道  
 そや重いのわらおんの人けあけ振  
 大ぶくやうれせ受能歌えくま  
 海士のまゝにけりこまつこめ外  
 人里の味歌らんよる市  
 全南都 東芽  
 うくいもの身成かゆりしる居る  
 相列苗京 洒凡  
 飲のして古上下そらあふら那  
 つくまのやいそもて哭ふあまん



大くもやまふくめくふふ十星  
 夕雲の月かりまへく柳小  
 三年花言橋をくぬ半し  
 梅の木の松小竹多ふまをうふ  
 右し出まそま女たり言くそり  
 ほどくけく二足も新し門乃ま  
 集まかろままの度まやの市  
 あり水やこゆるま三年の影りま  
 我社ふらく言くま女之那

全 柳山  
 全 暇石  
 全 二時  
 全 晋社  
 全 女之那

奥白川連

批灯小娘んのまのやのりま  
 河のまのまのまのまのま  
 家くの禮紙小報まの那  
 朝飯子色ままのりま忘  
 日小柳くつを何まふのりま  
 言まみ報く高紙初言ま  
 三年の向月のまのまのまのま  
 上望く批灯出まのりま

全 茶泉  
 全 了んぬ  
 全 娘女兄  
 全 太如

蒼陽

常列意ヶ崎筑波庵連中











管船やさしつりすも年の終  
庭うらまきつんきぬり今朝の  
年の終やまの終もかみ車  
るうまやむり一男能 衣  
射るうらまきぬり終のら文費

今町田

木結

春薫

乾坤節連中

車童改

月を

遠草や山溪おまのハ昔登樞  
ふんばさハそや柳うらまき  
うこまかむ海小糸うらまき

財裁改

阿や

帯帯かむゆくとしどみ  
えりやうぬのせ若れ若  
おまをそまハさあそ作き  
えりやうぬのせ若れ若の  
唯うらまきうらまき  
えのいさのく柳うらま  
おまをそまハさあそ作  
ゆりうらまきうらまき  
うらまきの奥をうらまき

馬柱

方壺

百侯

白羽



春のや松のついでにふしうきら

煙掃く春のふしうきらと筆毫

えりや里人つくふしうきら

そのついでに紙をぬく春のふしうきら

ふてしうきらふしうきらと紙のふしうきら

様もさうやふしうきらと紙のふしうきら

あふきのふしうきらと紙のふしうきら

後ふしうきらと紙のふしうきら

若ふしうきらと紙のふしうきら

菊

梅

逸

雪

七

春のや月夜ふしうきらと紙のふしうきら

木のついでにふしうきらと紙のふしうきら

春のや月夜ふしうきらと紙のふしうきら

春のや月夜ふしうきらと紙のふしうきら

桂庵社中

春のや月夜ふしうきらと紙のふしうきら

春のや月夜ふしうきらと紙のふしうきら

春のや月夜ふしうきらと紙のふしうきら

春のや月夜ふしうきらと紙のふしうきら

沙

雪

立



さきからし千尋し〜川流 藤住

字案ふらふのちおまらる日 如水改 玉守

ほき健ふ鶴の海花何ふか 然れも改ゆふ〜や幸の言 花教改 草魁

初鶴やふ〜川ぬきふま〜 松山のふらした〜も船かうま 五心歌

月二更鐘ふ〜はて〜年暮ぬ 古来の雪片舟て初りゆ郎 文星

衣配〜と〜君との〜 子稻のふらば〜又〜初りゆ 町〜つ〜年〜の〜の〜葉〜柳〜

元朝 可因

整えつ〜ハ〜鯉喰き〜やまの凡 女 浪花 石漱 福之

と初や飯名ふ〜わ〜く〜 学部のあ〜あ〜ら〜く〜や〜年〜の〜冥 入り 松の凡 あり

えりや〜り〜く〜ふ〜ぬ〜松の凡 中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那

中〜こ〜く〜ふ〜小〜家〜か〜て〜柳 那







上中太細

魚舟の中も礼の里は花の雲 忘花

浮城人の習やと一れ波 江戸

自晴る空は地も何れ梅の花 南瓦

子西春

蒼生尔又すくら世は川 流き錫 東中改 別象

大名も所をの位む性まふ邪

世もこの際時くくろ扇子賣 仙話

松も竹も東風は門や大崎日

一月月礼もかきくくく 吏曉

斧入ぬねはふさちぬき 吏山

松も竹も竹も花の唐うら 吏山

川も竹も花も実い 吏山

細くの右色は色や折鏡 麻中

梅咲て一樹小古たこよ 麻中

山はま 夢山

静 夢山

佐保姫の深み 衣貞

網 衣貞



不のくしる中へ付るもの言  
 梅さくや梅餅ふ梅ふも別路  
 笑り小人透らぬすもし  
 つくハ洞の花はぬまふの那  
 止まらずも人ふつらや年の節  
 元日や静ふ静まの節やし  
 子室のつれあはすや何れも  
 まる川や鳥の音もつれあ  
 来とくや静く静ハ言ふ

素人  
 洞仙  
 素人  
 兔咄

松舟の漂月高やきう船  
 天元お一や初けけ初のおお  
 実の入く空さの軍物大ら十日  
 早ねるもあ花のぬや福出早  
 字や梅枝の梅も一二輪  
 手にしてふまののひかそ松のま  
 裳裾ふむ人のやとやの節  
 早ま  
 門書小市れぬ人こあ

鬼瓦  
 芙蓉  
 大熊  
 雲兒



箱子鳴るる田の歩解存官  
 不立し鳴るる命しきの布  
 えりや尋らうふくろくろ海  
 茶餘のきれ部やゆれ香  
 えりやまきさばゆら松の落  
 幸波の漆くや春糸市  
 何まかち小かちこ初りく玉のま  
 夫々しもつくぬぬあや遊るい  
 柳ら魚は折ぬらり割るけ  
 可久  
 卷耳  
 棧川

了案や山らりり生一笑  
 初籍小紙りゆるしん年実  
 夫々しもつくぬぬあや遊るい  
 多勢もまきくんだらあやあま  
 かくくー除衣のゆらし小流の言  
 清初ふるる葉の香やまきあゆ  
 春光  
 何まかち小かちこ初りく玉のま  
 夫々しもつくぬぬあや遊るい  
 柳ら魚は折ぬらり割るけ  
 可久  
 卷耳  
 棧川

四七

江戸 歡文

駿府 兀子

苑席

玉色



昔お子のおんがしこま花のま 亀交

ふ灸やうは空かた際てん 雑随

掃控ふ露者かきしはき鏡 牧牛

蝶もきや掃ハ巾くまつた 斗南

はは御子又何〜こきとそいぬ 雲子

修安海老の舞ふつ〜やどの市 斗南

えりやいつちけうん大崎日 斗南

ふえ〜し露不入るふ惟す 雲子

えりや於斗おん通聖 雲子

け〜や志〜れつ思川流の歌 其流

お身極は於のつあやかさる母 其流

こ〜の〜し露ちり川流の〜 都水

吹〜つ〜やえ〜し〜く〜の〜強〜ま 都水

ま〜ん〜ま〜して〜ま〜し〜か〜ら〜松 悠志

つ〜ま〜や門〜ふ〜丈〜婦〜の〜こ〜し〜ら 悠志

り〜お〜お〜し〜流〜も〜の〜お〜子〜遊〜が 悠志

曉〜花〜恵〜と〜結〜し〜ま〜初〜日〜の〜那 惠光

り〜ま〜し〜る〜や〜か〜り〜ん〜年〜の〜あ〜り 惠光







安永九年ノ歳ハ丁シヲ  
大正九ノ十一歳ナリ

早午の春、秋、冬、夏  
を川老やもあふくまで水の橋

小泉

橋入るく春の春らんらん花せつ春

うきれい春の春ふかひしき

百、ハ、ミ、ク、九、ミ、キ、ツ、ク、の、春

浪花 旧國

此の春は上流にすむ半軍家の子  
半ハク、ミ、ク、ミ、ク、ミ、ク、ミ、ク

月の不こそをれあふくハ、秋、冬、の

白戸 花明

えりや秋子あふく小多る京

餅つきやあふくあふくあふくあふく

初籠ふあふくあふくあふくあふく

故流

えりや秋子あふく九日あふく

手折あふくあふく柳のあふく

白くあふくあふくあふくあふく

えりやあふくあふくあふくあふく

餅つきやあふくあふくあふくあふく

ふくやあふくあふくあふくあふく

摺とあふくあふくあふくあふく

神の代乃あふくあふくあふくあふく

あふくあふくあふくあふくあふく

南條

南條  
小枝

月村

名谷



五月のそよきえしめはにき餅  
 折ハもふおふ白ひや梅の花  
 年暮の向ふおしきし外きき  
 年始月おと夜半をひききん  
 年つきおしきしききしきしき  
 門きやみまもききしききき  
 佐保路の結めとくやきし柳  
 三年報や納ふもふハ後書  
 竹支  
 咏梓  
 時中

佳氣

雪の香あきし入初りき那  
 掛網ふききし門塔のちうき  
 えりわはきしききしきき  
 年波と紙しききしきき  
 年暮やききしききしきき  
 年暮の向ふおしきし外きき  
 年始月おと夜半をひききん  
 年つきおしきしききしきしき  
 門きやみまもききしききき  
 佐保路の結めとくやきし柳  
 三年報や納ふもふハ後書  
 五嶺  
 杖斧  
 鳥曉  
 物我  
 貞重

...

...



松木の柳舎ふきの入に  
 たりや小松の中此を常  
 魚と孕むるものもや年の秋  
 遊草やうは海に流るる  
 け陰に神を祀りしや  
 浮島の路や船のねうま  
 枕唯此をよもむるや  
 尺八の音ハ華啼を羅 月  
 蓬萊ふるや海山の影いふ形

吐輪  
 李咲  
 若陀  
 武貞  
 竹城

去ふ又年の鳴戸や大ぬ日  
 むふしうめ家の山や音始  
 常春のや若しやなれ宛  
 吉野路の門出たるや初こ  
 るハ道走りて鳴くや  
 勢の川上回さるる  
 雪や柳小初るる  
 夏前早やとあてやあけ川世吉の  
 ハ百葉柳ふやふや練の  
 至丸

樂土  
 白花  
 如凡



517

下流屋のふくろりえんや免やふ  
 納風のこころしきしき  
 後者のよさしんがんその凡  
 去の野や社に川も娘小松  
 江川海ふまのそあまやま海  
 大内も空書かきけれゆさば  
 龍  
 系  
 明

青陽

真須賀川

清子中にほろり凡情やしほのま  
 梅うもつや日も静ふしこころ

朝露

横をやちりりまむまのま  
 雨考

梅の花ふふしきまむ白糸  
南記宮崎

み水ふつふつあやさま  
 硯月

虫をせん屏まらるるのま  
今

初そや日本おつと一の屏  
 梅初

川子や月を花の道入口  
上サ大ノキ

赤いふつふつあやさ  
 林子

おきくちちちねふるんりくの雲  
云居野

君う代やふし修者乃松おま  
 其半

518



年の尾を焚きけりし葉舟  
下毛那須寺子  
 英朝  
 春の心小内介ふし梅の来  
 志道一ふさの中ささの梅  
全芝野  
 一  
 初冬凡や千里も木の那道  
全芝野  
 一  
 牛も百里の漆小忌ふりり  
全芝野  
 一  
 お生の杉凡や門の来  
全芝野  
 喜一  
 松もやや札ハ梅のそと山並  
志道に於  
 巴舟

歳首

海の水を流すありし初り  
片渡庵連  
 普成  
 春の心や何れ葉舟の古柏  
 梅もやや二径ふさのき御土着  
 高みありし葉舟の初り  
 葉舟よささの梅の来  
 春の心小内介ふし梅の来  
 飯の香酒をハ男持の那  
 春の心ややんさむす岩の那  
 どれほどのねらま時をかこる

雲 珮  
 藍 御  
 其 帛



えりやわらわ眼尾わらわら一ね  
 青柳  
 江戸をえせに舟連りんかき書  
 初江  
 清くそら波小静子初江  
 初江  
 三年一々山を越るんか  
 音山  
 初江やと一江山望川  
 音山  
 松賣や如史の清山此松賣より  
 馬翁  
 いつことおのちとねかきり  
 馬翁  
 玉川おふる浪や茶洗  
 馬翁  
 大波の神より松わら戸のま  
 祖山

待たぶく二又う浦下と一まは

蒼陽

松舟とも習ふ杜や千代のま  
 藤文  
 木のゆりも正月一とを梅は花  
 藤文  
 茶のちの嬉も折あや奇 紫  
 藤文  
 江守お二日の望おれり初江  
 藤文  
 松くやるおまの川とつら  
 藤文  
 松かしく折まのまの古層  
 藤文  
 風をこふ千里の舟やかさる舟  
 藤文



くらり霞まへ川かすきすき  
 東のくさくさ山はくくく  
 小糸女の子ふねくくく  
 くらり女の啼きおきくく  
 軒くくくくくくくくくく  
 松栢母様ハ朝もくくく  
 くの子の夜也清読の月不栢の花  
 松栢やめくくくくくく  
 けくくの隣や近くをくく

雲水  
 雷也  
 岡々  
 竹童  
 成美

春興

春柳小るきくくくくく  
 鐘のくくくくくくく  
 君の代や娘もくくく  
 梅くくくくくくくく  
 糸初や三帆くくくく  
 梅くくくくくくくく  
 未度くくくくくく  
 春柳や一糸小くくく

成美  
 兒鳥  
 菊也  
 窓雨  
 菅奴



空のうらやまもはるかに  
神垣の梅多分麻小や南信里戸花の虫 菅之

鹿茸糸歩の修上井本花文津さ射ふ

まや石色のる場の色れ松  
い糸つむやん上井本ふ文津む射日射の秋

友とやハ上井本ハ文津さ射ふ射ん射ん射の昔  
幸のふ上井本花文津さ射ふ射ん射の昔 鶯

難波津上井本や文津よ射く射定射ふ射幸射花射梅  
門く小上井本花文津んの射香射や射く射朝射の射香 寛之

高のま上井本く文津千射五射花射や射幸射の射昔  
くく上井本い文津ま射や射倍射打射く射ふ射れ射と射る射の射昔 一 鶯

名上井本花文津も射心射く射て射ふ射の射あり射ふ  
梅さく上井本や文津琴射糸射く射の射花射を射ふ射り 徐江

り上井本心文津や射メ射さ射く射の射花射を射ふ射り  
政旭 奥信更報園建中

門上井本花文津や射さ射く射ふ射ふ射二射り射日 雨后

ふ上井本ふ文津く射く射ふ射ふ射と射蜂射の射月射花射小  
初上井本花文津ふ射く射や射は射き射川射半射花射松 野牛







市中を百物や花をば  
 常もどつくはひぬこゝら  
 切凡中やこけぬる種の花  
 梅一枝ま然りて年あが  
 又えのふゆしり初ま  
 向の冬はしや松母まの山  
 掛るや空際ハるは吹ハるけ  
 南しよも少しきこゝら福来  
 梅又まは志けりしり大あ日

犬槽  
 大丸  
 海夜  
 女之根

梅まよや眠るんて眠らま  
 三年毎小一坂りや大あ日  
 自小ましく地けたり後ま  
 何むしりまぬるふ一年の市  
 えりや神戸の風ははまかり  
 世はるれは他のくくし年の暮  
 今朝のまを殺つてらぬ人ま  
 水音

石山  
 女  
 菱蝶  
 来真  
 鼠呼



琴小圃むんも幸此使り  
 車井尔かけあそむに初り小 砥村 東砂  
 鯉さけ 常徳寺主 小女  
 小女 小好  
 赤の杉山ふと誠さく免幸の波  
 糸門此夏の枝や初みり 五恒  
 昔ハ赤ふもよと前さるるの夏  
 大虫の光はそよよふ乃去 沽古  
 沖小帆っんもるるの字舟

茶舟の役つづもや無忠 下廿細 梧井  
 さよ枝をふと定む鉢の梅  
 稀もみ男持や幸りす終  
 うくさすの夕アみ雨海情の小 江戸 流先  
 月々や歌えり初も想おけ 月息  
 川柳の書や恋らん様 月 魯洲  
 東 薑  
 かへふ日かきふえとへかき 橋本 薑 堂 段 竺蘭  
 差 想 全家每 藍砂  
 そよ小縁くく川をくくついの海屋



松月のかうよや幸の赤糸より  
 千々何おもいぢりしらや梅安草  
 録花や柳さくろをとりし松月  
 冬居る候の破ふよー松の丸  
 おもー松の雪も録や門の松  
 えりや後編より新むし松  
 さらきまの走りか糸や縄巻  
 蓬草や梅老の五物くけりし  
 まくろよ的ーとよりれ破た交費

孝門  
 亀江  
 梅井  
 洗水  
 南若

松月のかうよや幸の赤糸より  
 千々何おもいぢりしらや梅安草  
 録花や柳さくろをとりし松月  
 冬居る候の破ふよー松の丸  
 おもー松の雪も録や門の松  
 えりや後編より新むし松  
 さらきまの走りか糸や縄巻  
 蓬草や梅老の五物くけりし  
 まくろよ的ーとよりれ破た交費

孝門  
 亀江  
 梅井  
 洗水  
 南若

鶴且

津軽黒岩連中

家の子に浪きあふし去初人  
 小舟さくろ子海を也松の丸  
 初りさくろ岩木の松や浪世界  
 小男松安いっのーや除水の是

子成  
 可橋



今朝の雲ねと透日の影ふし  
 柳のささり想板のしらぬ  
 えりのよき賜や海舟中  
 煙るまきやるつまらぬ  
 臨ふらと松の影ひやうけ  
 菟ふ原すさや幸のおまき  
 意乃おふ松ふく徳んを園性  
 有殿一任つけらり解ひ  
 五つとふと実花ふ程や初のお

子堂  
 梅成  
 梅丁  
 李耕  
 子謙

裁縫とそとのねまや衣配  
家後ふき  
 了まふかすす枝や向ひ落  
 新ま判ハきうも一道まま忘  
 蓬草や海山うけらるゆま  
 餘花の枝もあつた家のん  
 らまくやまらまらまらまのま  
 法まやまてま海まのま案まれま判まれ  
 名まふまのまもま初まのま鏡ま海ま老  
 登ましまらまのまもま一まつま海ま日

文光  
 身ま謂  
 芳耳  
 龜江



和らやわらわらぬねのそ

連史

娘か子とまうけの寄りや白のちけいよ

呂人

門録雅う教くく月ハ

呂人

千念しりやハ大能あひ

圃山

淡よりせんふらの花初自

圃山

そ年の尾能あも終しかる月

東喬

こまふつと東向吹松の初

東喬

そふふや遠子も拾ふ夏

五柳

ゆふや古拾も宗に

五柳

竊ふと味も空なり遠健の

鶯尺

ゆてり所ツ女を冠と

鶯尺

命教うき大思愛て

鶯尺

遠草小も深ふさした月

文桃

大さの夢かしくり

百川

山名もり所ハ

百川

秋居て

百川

福生

五瓦

心

五瓦



八二二二二

目もろやうも表すの乃委  
流渾新本跡亦名和系松葉  
えりややれは修の人と修  
琴子もまもつてん年未撫

馬光

竜松

彩唐

つとふふ傘や中へ家舟  
ま月の輝はさう中へ家舟  
湖と新あそ松の初り系  
幸願ぬ市はよりれかさ草

越後

梅至

吐江

稻里

逸空花



